

津久井やまゆり園での事件について（声明文）

2016年7月26日、神奈川県相模原市の障害者入所施設で起きた悲惨な事件で、尊い命を奪われた19名の方々に哀悼の意を表するとともに、心と身体に深い傷を負われた方々の一日も早い回復を心からお祈りします。

加害者は事件を起こした施設で働きながら、重い障害のある人たちの生きる価値を否定するようになったといわれています。事件の背景と動機は今後深く明らかにされる必要がありますが、重い障害のある人たちの存在価値を否定し、その命を奪ってよいという発想は、断じて容認することはできません。

わたしたちは、重い障害ゆえに、呼吸をすること、身体を動かすこと、自らの意思を表し伝えることの難しい子どもたちから、一人の人間のいのちの重みと生きる喜びを学んできました。子どもたちが示すわずかな手足の動きや表情の変化、目には見えにくい生理的な反応のなかに本人の意思を読み取りながら、子どもたちのいのちを輝かせ、生きようとする力、発達へのねがいを育んできました。そして、重い障害のある子どもたちを社会や地域の一員として尊重し、共に生きようと願う人たちの輪を広げてきました。

わたしたちは、これからも、重い障害のある子どもたちに学校教育を届けながら、子どもたちの生きる力を育み、いのちと人間としての尊厳がひとしく大切にされ、誰もが排除されることなく、安心して暮らすことのできる社会をつくるために、学校と地域にねざした訪問教育に取り組んでいきます。

2016年8月30日

全国訪問教育研究会、全国訪問教育親の会